

## 育成を目指す資質・能力

種子に含まれる養分と、発芽後のしぼんだ使用に含まれる養分を比較する活動を通して、植物は種子の中の養分を使って発芽することを理解できるようにする。

## ICT活用のポイント

ヨウ素液をかけた種子と発芽後の使用を、班ごとに撮影し提出し共有する。  
端末に配信された、時間経過に応じた使用の変化を見て、考察を考える。

前時の学習を振り返り、見いだした問題を確認する。

前時に個別に考えた予想を話し合う。

実験を行い、結果を共有する。

結果や資料を基に、考察を行い、結論を導く

## 事例の概要

- 種子と子葉のデンプン量を比べるために行った実験結果を、ICT端末で写真撮影し、学習支援ソフトを使いクラスで共有する。
- クラスで共有した結果と、資料を基に各自で考察を行い、結論を導く。

### 【事例におけるICT活用の場面①】

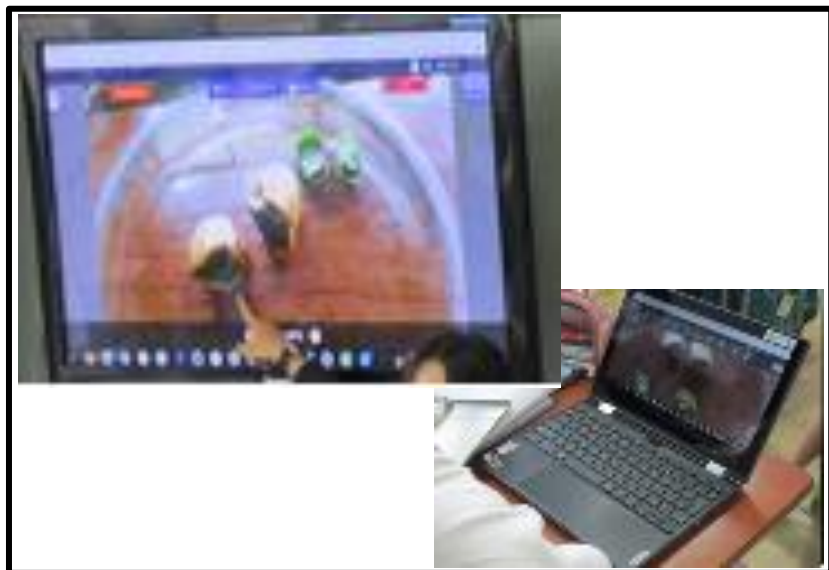
- 多くのデータを比較して考えられるように、班ごとの結果を一覧表示する。

### 【事例におけるICT活用の場面②】

- 発芽後の子葉も色が変化した理由に気づけるように、時間経過に応じた子葉の実験結果の写真を児童に配信する。
- 複数の結果から多面的に考察できるように、子葉の外見や手触り、実験結果、資料などを総合的に判断するように促す。

# 【理科・小5・教科等・「植物の発芽と生長」】②

## 【事例におけるICT活用の場面①】



実験の結果をICT端末で撮影し、プレゼンテーションソフトで共有した。自分の班だけでなく、他の班の結果をすぐ見ることができるので、児童は自然と他の班との結果を比べて考察を進めていた。

## 【事例におけるICT活用の場面②】



教師は本時の前に発芽後の時間経過に応じた子葉のヨウ素デンプン反応を写真撮影しておく。各自が考察する場面で、児童に配信する。児童は、本時の実験結果だけでなく、発芽してからの経過時間とデンプン量の変化の様子を写真で確認することができるので、「植物は種子の中の養分を使って発芽することを理解できるようにする。」の結論を導きやすくなる。

### 【活用したソフトや機能】

学習支援ソフト

写真撮影